

平成26年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

| | | | |
|-------------|--|--------|-----------|
| 学 校 名 | 関市立武儀東小学校 | | |
| 実 施 期 間 | 平成26年10月18日(土)～11月11日(火) | | |
| 実 施 概 要 | ①家族参観日「親子サイエンスショップ」 ②地域の文化祭・産業祭への参加 ③さつまいも収穫祭 ④地域の方による読み聞かせ | | |
| 実 施 内 容 | 学習・取組の分野 <input checked="" type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 歴史 <input checked="" type="checkbox"/> 文化 <input type="checkbox"/> 産業 <input checked="" type="checkbox"/> その他 | | |
| | 公開の方法 <input type="checkbox"/> 授業公開 <input checked="" type="checkbox"/> 成果発表 <input checked="" type="checkbox"/> 交流活動 <input type="checkbox"/> 講演会等 <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事等参加 <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 来 校 者 数 | 保 護 者 | 約 70 人 | 計 約 100 人 |
| | 地 域 関 係 者 | 約 30 人 | |
| 実 施 状 況 | ①家族参観日「親子サイエンスショップ」10月18日(土) ・岐阜県立岐阜北高等学校教諭今井健治氏によるマジックショー・サイエンスショーを親子全員で見学した。 ・PTA学級委員と学校職員とで企画した5つのサイエンスショップ(スライム時計・パタリンチョウ・折り染・今日の月はどんな月・スチレンヘリコプター・皿回し)で、親子が一緒になって科学工作を楽しんだ。 ②津保谷産業祭11月2日(日) ・武儀・上之保地区合同の産業祭アトラクションとして1・2年生が運動会でも披露したダンス「ファミリーパーティー」を披露した。 ・武儀支部文化祭10月28日(火)～11月3日(日) ・期間中、全学年の書写・絵画作品を武儀生涯学習センターに展示、最終日には5・6年生が運動会で披露した「東っ子ソーラン」を披露した。 ③さつまいも収穫祭11月7日(金) ・5月に武儀地区青少年健全育成協議会の方の支援でサツマイモの苗を全校児童で植え、水やりや草取りなどをして育ててきた。10月29日に全校で収穫したものを、育成協と協力を依頼した老人会のみなさんにさつまいもを焼いていただき収穫祭を行った。隣接の福祉施設ウエルマッシュ美谷の方々も招待し、異年齢集団のグループで一緒に遊び、焼き芋を一同で食べて、交流を深めた。 ④11月11日(火)地域の方による読み聞かせ活動 ・4月から毎月第2火曜日に、地域の読み聞かせボランティア「ふきのとう」のみなさん(女性6名:児童の祖母世代)から朝活動の読書時間に各学級一名ずつ入り、よる読み聞かせを行っていただいている。 | | |
| 成 果 及 び 課 題 | ①本校の特色ある教育活動「科学が好きな子ども」について、保護者の理解を深め、親子で科学に興味関心をもつていただくことができる行事となった。 【保護者の感想】 ・おもしろくて不思議なショーで、子どもも大人も楽しめたようです。 ・マジックとサイエンスの違いを話していただいて、よくわかりました。 ・同じ材料でも、出来上がるものに違いあることに気付かせて良かった。自分のオリジナルなので大切にしようです。 | | |

- ・子どもが興味をもって見ている姿は好感が持てます。
 - ・子どもの目が輝いていました。
 - ・子どもの夢中になって参加しようとする姿が良かった。
- ②産業祭や文化祭の主催者から、「地域の特徴として、こうした催しは高齢者の参加が多くなりがちである。児童生徒の参加で親世代の参加を促すことができる。幅広い世代の集う催しにしたいので、児童生徒の参加はありがたい。」と伺っている。
- ③福祉施設「ウェルマッシュ美谷」には、様々な障がいの方がおられる。6年生が交流をしているが、年1回の全校児童との交流を大変楽しみにしておられる。この機会は児童の障がい者理解を促すものとなり、望ましい接し方を学ぶ機会となった。また、地区の青少年健全育成協議会や老人会の皆さんにお世話していただくことで、児童には感謝の気持ちをもたせることができた。
- ④読み聞かせボランティア「ふきのとう」のお一人から、次のような手紙を本年いただいた。
- 「二ねんせいのみなさん、きのうは、学しゅうセンターへ、べんきょうによく来てくれましたね。わたしは、昔ばなしを作っていました。大昔キツネやタヌキやノウサギがいっぱいすんでいたところを見つけたからです。できあがったら、また、よんでくださいね。
- みなさんが、わたしのかおを見つけて、「むかしばなしをよんでくださってありがとう・・・。」と言ってくれましたね。わたしは涙が出ました。そばにいた二人の先生が、「なんとすばらしい子たちなの・・・。」とほめてくださいました。三年かん、よみきかせをしたさいごの日に、『カッパのごちそう』をよんであげたこと、ぜったいわすれない宝(たから)ものになりました。ほんとにありがとう。」
- <成果と課題>
- ・本校は学年が少人数集団の学校で、小学校の6年間は固定化された人間関係の中での生活となる。そんな小集団には地域の方々の支援や多様な人間性とのふれあいは、児童の見方、考え方に新鮮さや変化をもたらすことになる。
 - ・本校にとって地域は貴重な教育資源である。特に地域の人材には子どもへの支援や交流に楽しさややりがいを感じていただき、継続していただけるようなコーディネートが大切である。